

【東海地方版】DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 2023年度版

～広域交通網の活用による周遊観光客の呼び込み～

2024年4月4日

 **DBJ** 株式会社日本政策投資銀行

東海支店

結論

1. コロナ禍が収束に向かいインバウンド訪日が増えた2023年のインバウンド消費額を見ると、東海4県は回復が遅れている。コロナ前と比較して消費単価は概ね増加しているものの、来客数、とりわけ延べ宿泊客数の持ち直しが遅れている。最大の要因は、コロナ前におけるウエートの高かった中国人観光客の回復の遅れであり、県別でも静岡、愛知など中国からのインバウンドのウエートが高い県は大きな影響を受けている。グランドハンドリングなど空港の人手不足もあり、セントレアの便数回復も遅れが目立つ。
2. 今後については、中国本土からの観光客が持ち直せば、東海のインバウンド延べ宿泊客数もコロナ前水準に回復し、インバウンド消費額がコロナ前を上回ることも視野に入ってくると考える。むしろ現時点では、東海訪問を希望するインバウンドの特徴と訪日旅行におけるニーズを分析し、東海地域に関心を持つインバウンドに対する訴求力を高める方策を考えることが重要であると考え。以上を踏まえ、当レポートでは「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 2023年度版」より、東海観光地（名古屋、富士山、飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道）への訪問を希望する海外旅行者のデータを抽出し、その特徴と訪日旅行におけるニーズを分析した。
3. 東海観光地への訪問希望者の特徴は、「飛騨／高山」「伊勢志摩／伊賀」訪問希望者を中心に訪日リピーターが多く、日本旅行が大好きで、日本の地方観光地に対し、非常に関心の高いことが挙げられる。コロナ禍からの海外旅行の再開局面において、予算、滞在日数の増加が期待されるとともに、特に地方観光地への訪問希望者を中心にこだわり消費には出し惜しみをしない傾向も見られ、今後のインバウンド消費の拡大に期待が持てる。
4. また、サステナブルな取り組みへの関心が高い点も特徴である。サステナブルな取り組みは、「自然や生物多様性の保全等」にとどまらず、「伝統・文化の保存・継承」「地域経済の活性化や地域づくり」の保護と貢献も含まれることから、インバウンドに対して、自然環境の保護にとどまらず、地域の伝統・文化をはじめとする特色を活かした観光体験を提供することが求められる。

結論

5. 具体的な訪日旅行ニーズについて、東海訪問希望者は「自然観賞」、「名所見物」、「食事」、「ショッピング」、「体験」、「アクティビティ」全ての項目において、訪日旅行希望者と比べ非常に関心が高い。東海訪問希望者に特徴的な点として、以下が挙げられる。
 - ① 地方観光地への訪問希望者を中心にショッピングへの関心が非常に高い。往訪が回復すれば消費の拡大が期待できる。
 - ② 食事なら「スイーツ」「日本の酒」、体験なら「温泉」「フルーツ狩り」など、訪日旅行リピーターが好むニーズも相対的に高い。
 - ③ 体験では、「イベント・祭りの見物」「日本文化」「伝統工芸品の工房見学・体験」「伝統工芸品の制作や購入」「伝統芸能鑑賞」など日本の伝統・文化に関する項目が相対的に高い結果となった。
 - ④ 自然観賞では「雪景色」が5割を超え、アクティビティにおいても「スノーアクティビティ」が第一位となった。但し、スノーリゾートを第一目的として訪日計画を立てる旅行者は少数にとどまる。
6. 調査結果をまとめると、東海訪問希望者は日本好きの訪日リピーターが多く、伝統・文化を含めたサステナビリティへの関心も高い。温泉や日本の伝統・文化体験をはじめ、「日本らしい」コンテンツへの関心も高い。東海訪問希望者は日本旅行に幅広い関心を有しており、一観光地でニーズすべてを満たすことは難しい。スノーアクティビティを例にとっても、スノーリゾートのみで満足してもらうことは限定的であると考えられる。東海訪問希望者に満足してもらうためには、複数の観光地を周遊プランとして提供することが求められる。
7. 東海地域の特徴として、東海道新幹線、中部国際空港、県営名古屋空港、富士山静岡空港といった広域交通網が充実していることが挙げられる。加えて、2027年以降には、リニア中央新幹線の開通も計画されている。周遊性を高めるには、広域交通拠点を起点に観光地までの二次交通を整備することが求められる。東海訪問希望者は公共交通の利便性への感度が高く、交通スタッフの外国語対応、外国人にわかりやすい交通・料金体系や経路情報提供、切符購入や決済の利便性向上などが求められる。
8. また、充実した広域交通網を活かし、域外の大型集客イベントで訪日する旅行客に、東海地域を回遊してもらうことも検討に値すると思われる。例えば東海訪問希望者の大阪・関西万博2025の認知度、往訪意向は高い。リニア中央新幹線の開通で益々充実が期待される広域交通網をインバウンド観光活性化に活用し、周遊性を活かすことが東海地域に求められる。

目次

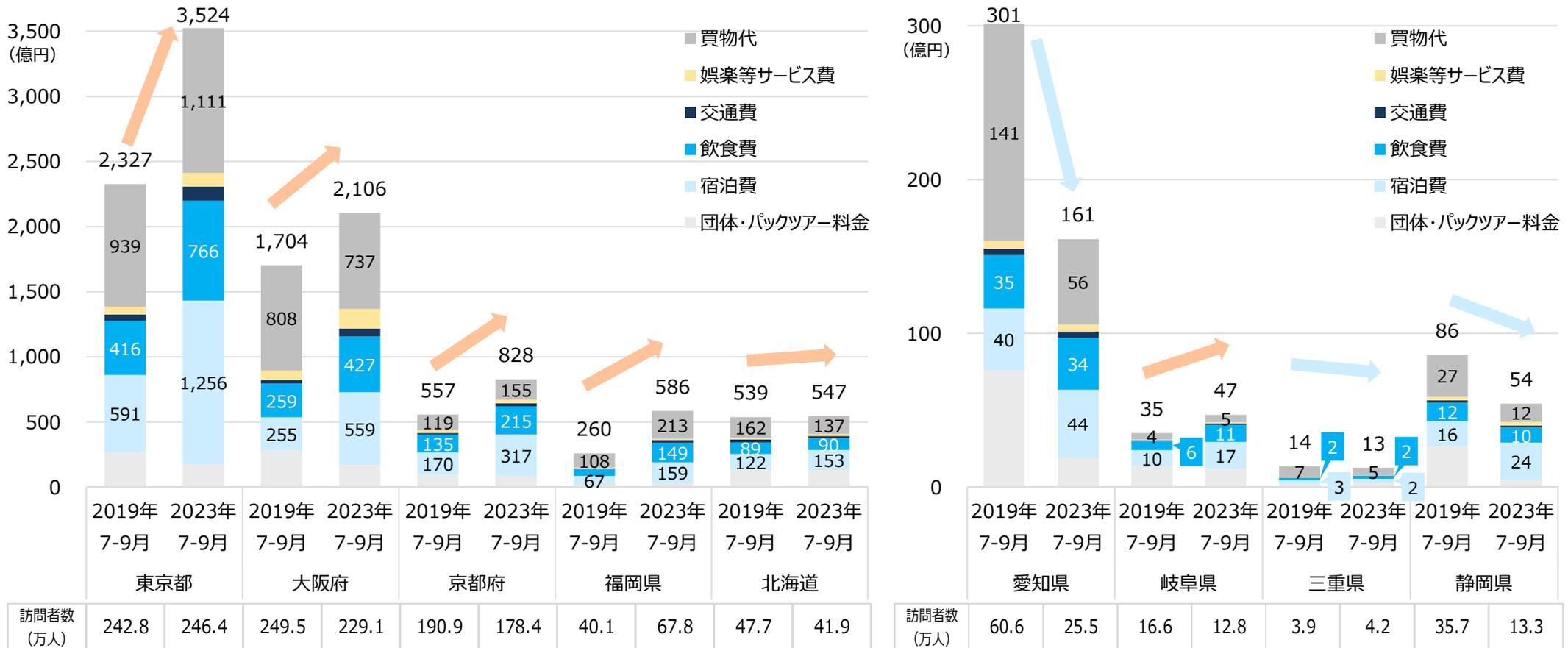
1. 問題意識	4
2. 調査概要	12
3. 分析結果① 東海訪問希望者の特徴	15
4. 分析結果② 東海訪問希望者の訪日旅行ニーズ	23
5. まとめ 周遊性の活用と向上	28

1. 問題意識

インバウンド旅行消費額：全国はコロナ前より増加も、東海は概ね減少

- コロナ前の2019年3Q（7-9月期）と比べ、2023年3Qのインバウンド旅行消費額は全国で23%増加した。
- 2023年3Qの旅行消費額は、東京都（対2019年3Q比+51%）、大阪府（同+24%）、京都府（同+49%）、福岡県（同+125%）、北海道（同+1%）など「定番観光地」で大きく増加した。
- 一方、東海4県は岐阜県を除き減少している。「定番観光地」と比べ、訪問者数の回復が遅れている。

■ 旅行消費額（3Q。全国 2019年：8,051億円→2023年：9,874億円。+23%）

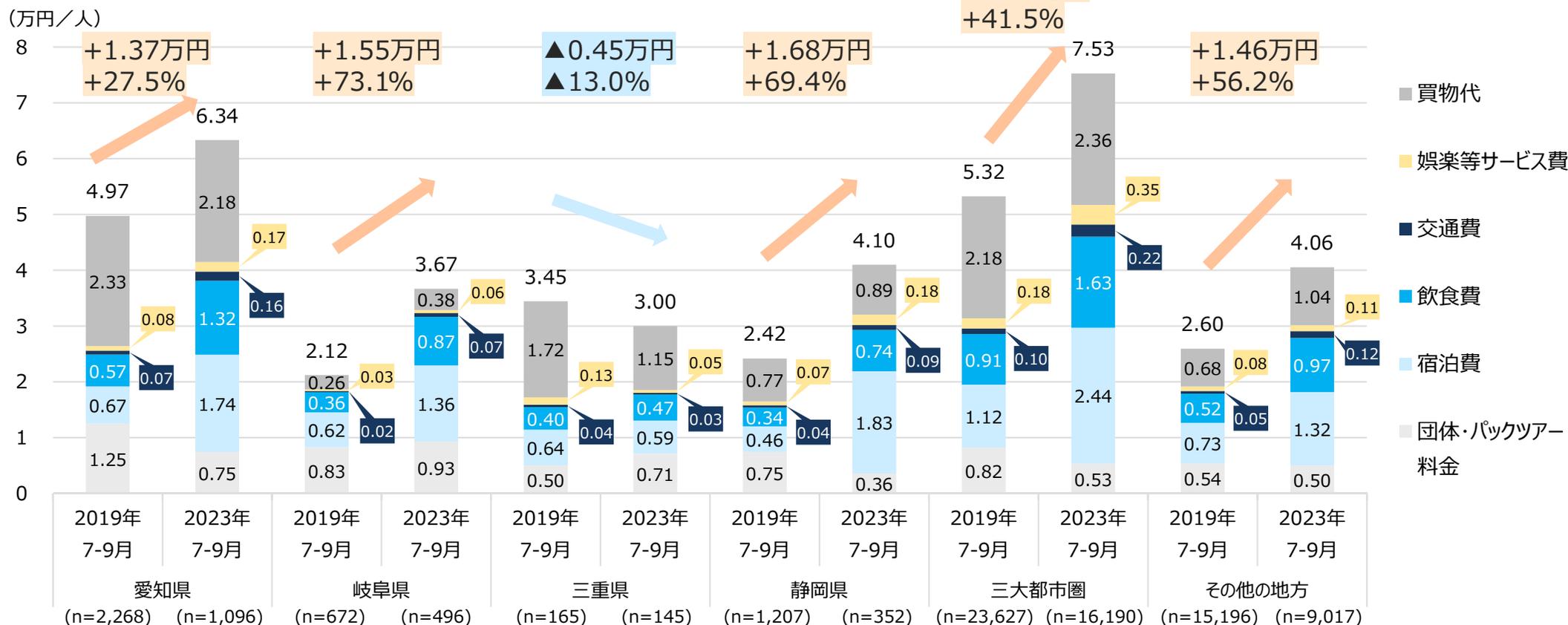


(注) 「旅行消費額」には団体・パッケージ料金に含まれる訪問地収入分が含まれる。都道府県間交通費は含まれない。

インバウンド旅行消費単価：全国同様、東海も概ねコロナ前より大きく増加

- 2023年3Qのインバウンド旅行消費単価は、全国、東海地域ともに2019年3Qより大きく増加した。
- 全国的にコロナ前（2019年3Q）より宿泊費と飲食費が大きく伸びた。
 - 岐阜、静岡は「宿泊費」と「飲食費」が伸びをけん引した。
 - 各県とも「買物代」とともに、コト消費を喚起し、「娯楽等サービス費」を伸ばしていくことが課題と言える。

■ 旅行消費単価（3Q）



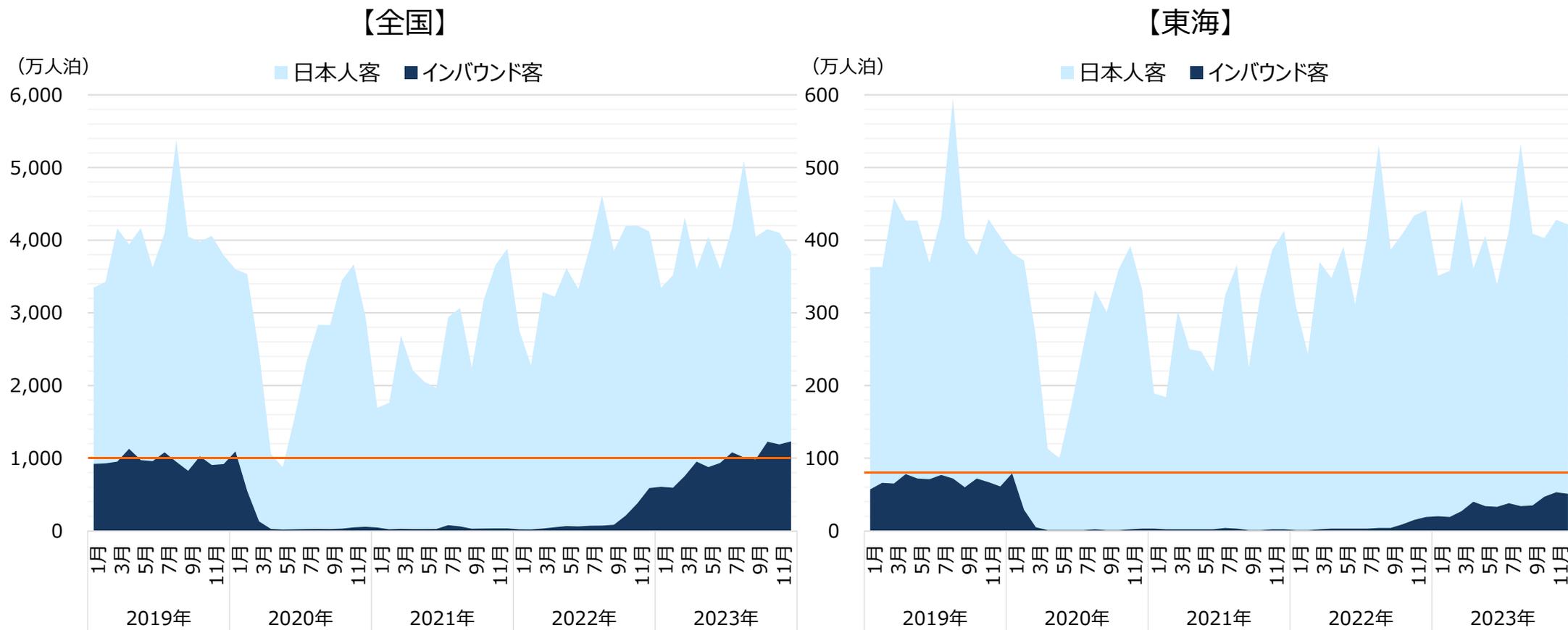
(注1) 「消費単価」には団体・パッケージ料金に含まれる訪問地収入分が含まれる。都道府県間交通費は含まれない。

(注2) 「三大都市圏」には東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・愛知県・大阪府・京都府・兵庫県、「その他の地方」には三大都市圏および北海道、沖縄県を除く県が含まれる。

インバウンド宿泊客数①：全国はコロナ前回復も、東海は回復が遅れる

- 日本人宿泊客数は、全国は2023年にコロナ前の水準をほぼ回復。東海も2023年9月以降、コロナ前水準を回復した。
- インバウンド延べ宿泊客数は、全国は2023年7月以降、コロナ前の2019年同月をほぼ毎月上回っている対し、東海はコロナ前の水準まで回復していない。2023年12月は2019年12月比84%にとどまる。

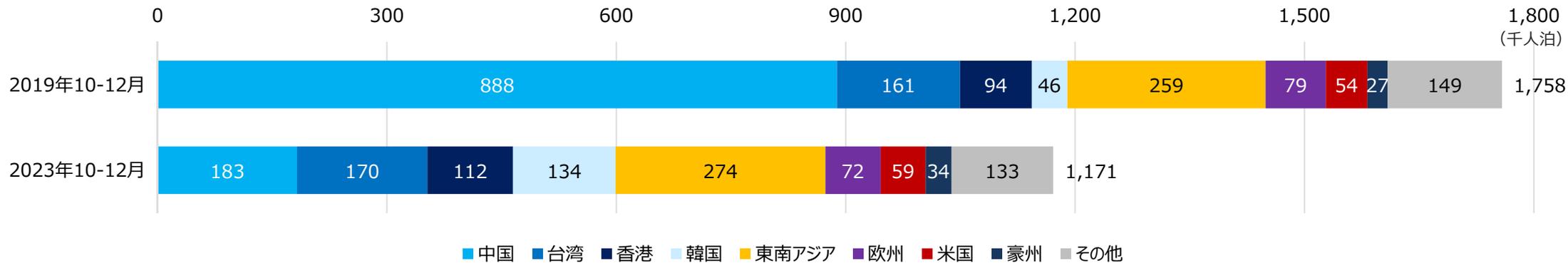
■ インバウンド延べ宿泊数（月次）



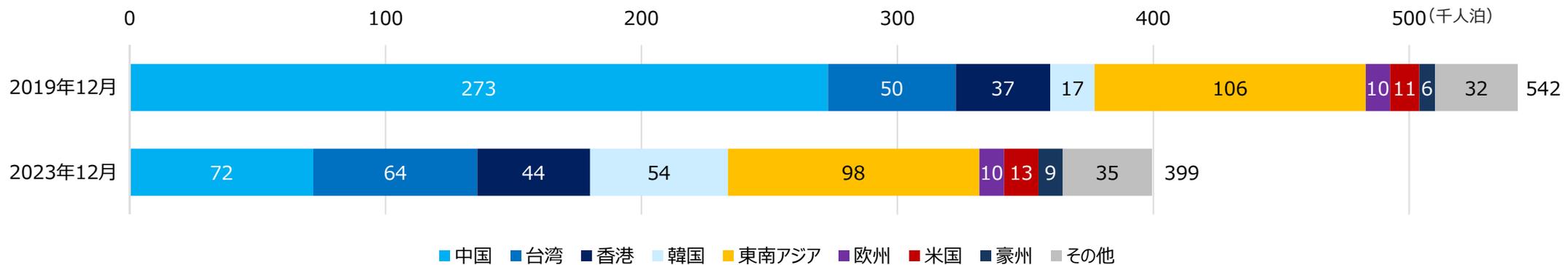
インバウンド宿泊客数②：国・地域別では、中国人観光客の回復が遅れ

- 2023年4Qの東海における国・地域別宿泊客数を、コロナ前の2019年と比較すると、韓国（2019年4Q比：+191%）からの回復が目立つほか、台湾、東南アジア、米豪も2019年の水準を回復している。回復の遅れていた欧州やその他も、2023年12月はコロナ前水準に回復した。
- 一方で、中国からの回復が大きく遅れている。2023年4Qはコロナ前（2019年4Q比）の26%、2023年12月に入っても2019年12月比26%にとどまった。東海のインバウンド宿泊客の回復は、元々ウエートの高かった中国人観光客の回復にかかっていると見える。

■ 東海4県 国・地域別インバウンド延べ宿泊客数（4Q。10-12月）



■ 東海4県 国・地域別インバウンド延べ宿泊客数（12月）

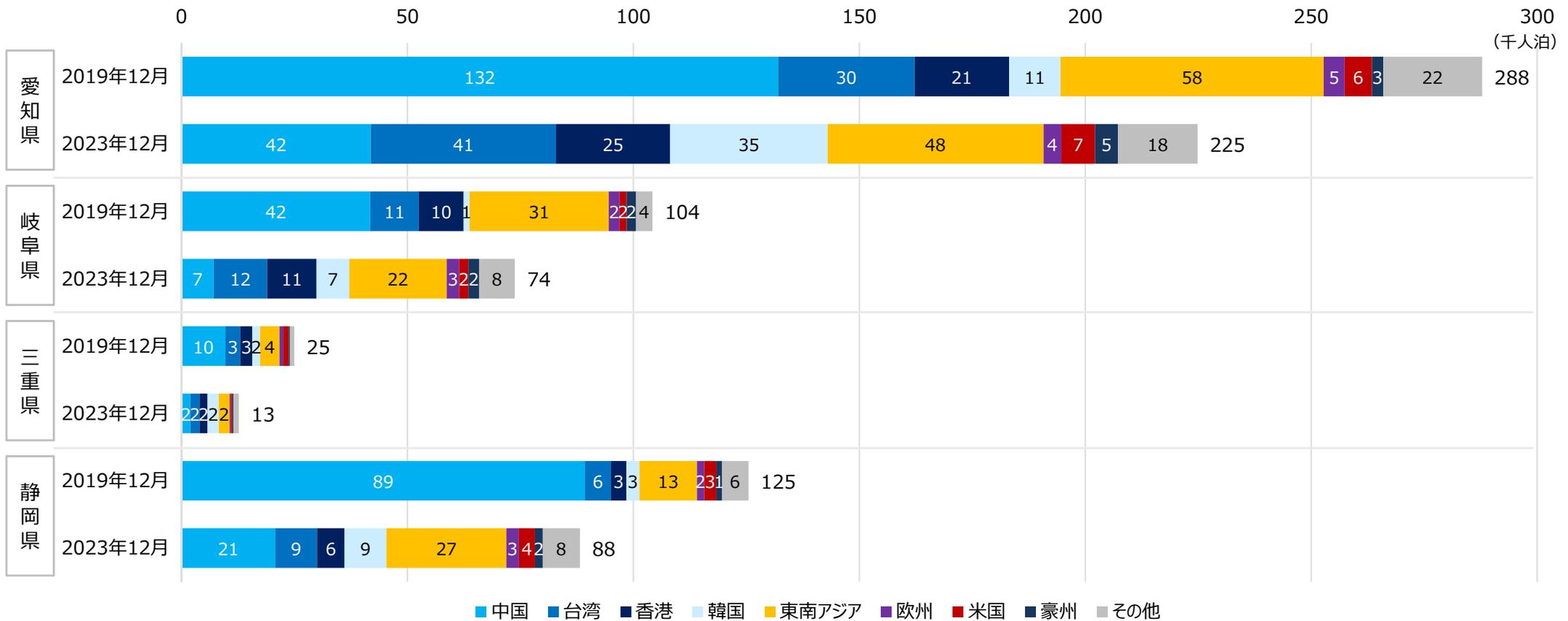


(注) 東南アジア：シンガポール・タイ・マレーシア・インドネシア・ベトナム・フィリピン、欧州：イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スペイン

インバウンド宿泊客数③：中国人観光客の回復の遅れが、各県の回復に影響

- 2023年12月の東海各県における国・地域別来客数をコロナ前（2019年）と比較すると、各県とも中国からの回復の遅れが最も影響が多い。中国を除く国・地域別来客者の状況は以下のとおりである。
 - 静岡は、中国を除く各国からの宿泊客数は概ね増加している。韓国、東南アジアからのインバウンド増が目立つ。
 - 愛知、岐阜は韓国からの宿泊客数が増加している一方、愛知は東南アジア、欧州とその他、岐阜はその他の回復が遅れている。
 - 三重は、宿泊客数の増加が確認できる国・地域のない状況であり、今後のインバウンドの県への誘致が課題。

■ 東海各県 国別インバウンド延べ宿泊客数（12月）

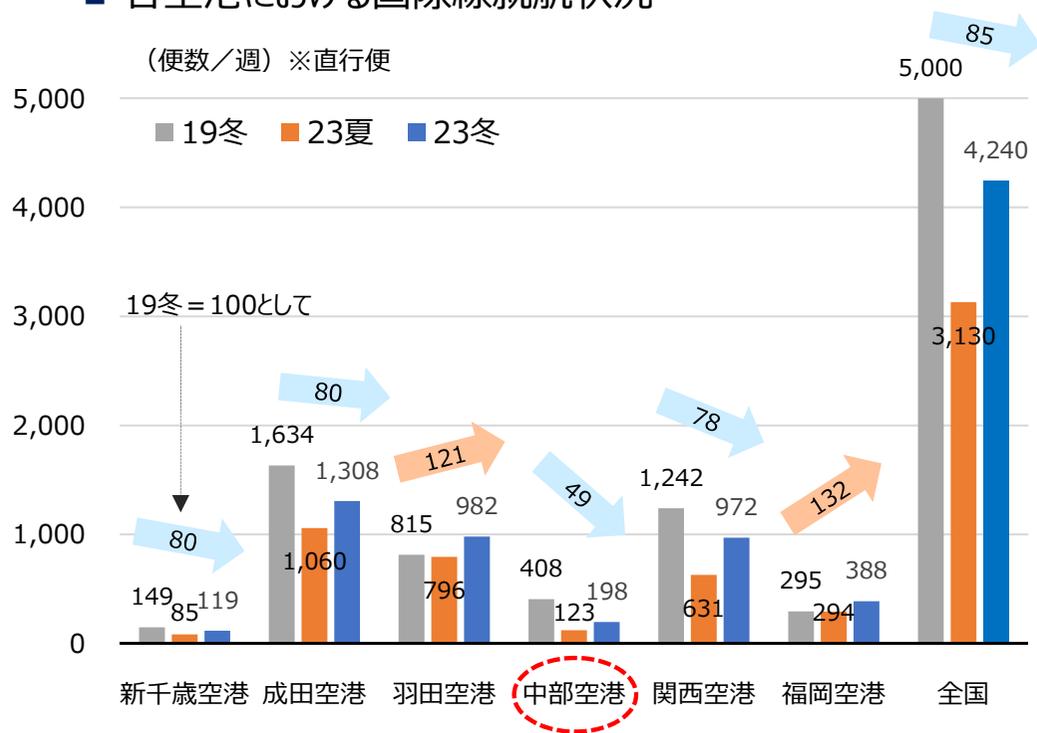


(注) 東南アジア：シンガポール・タイ・マレーシア・インドネシア・ベトナム・フィリピン、欧州：イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スペイン

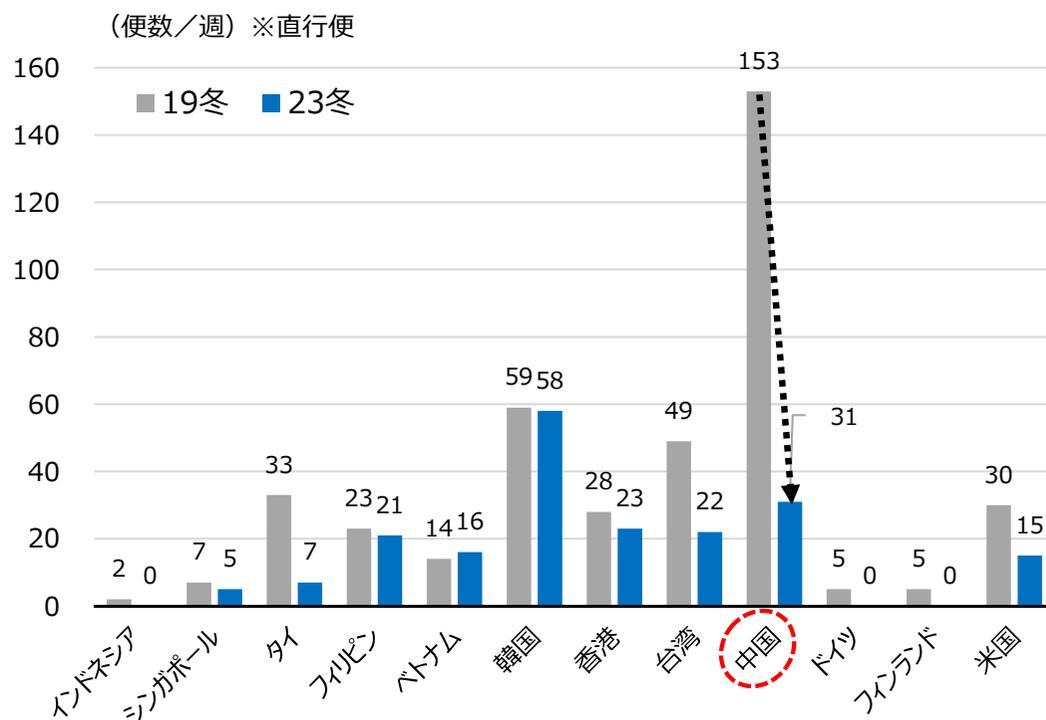
国際線就航状況①：中部空港も回復遅れ、とりわけ中国便の減便が足かせ

- 2023年冬ダイヤの国際線定期便は、全国がコロナ前（2019年冬ダイヤ）の85%まで回復した。とくに羽田や福岡はコロナ前を大きく上回る水準に回復した。
- 一方で中部空港は回復が遅れ、2023年冬ダイヤはコロナ前（2019年冬ダイヤ）の49%にとどまる。
- 中部空港では、2023年冬ダイヤ時点でコロナ前水準に回復している国・地域はなかった。とりわけウエートの高かった中国便が大幅に減便となっている。

■ 各空港における国際線就航状況



■ 中部空港における国別国際線就航状況



(注1) 「2019冬ダイヤ」国際線定期便 出典：2019年冬季事業計画認可データ、集計期間：2019年10月27日～11月2日、条件：出発+到着を1便とカウント、貨物便を除く旅客便のみ集計

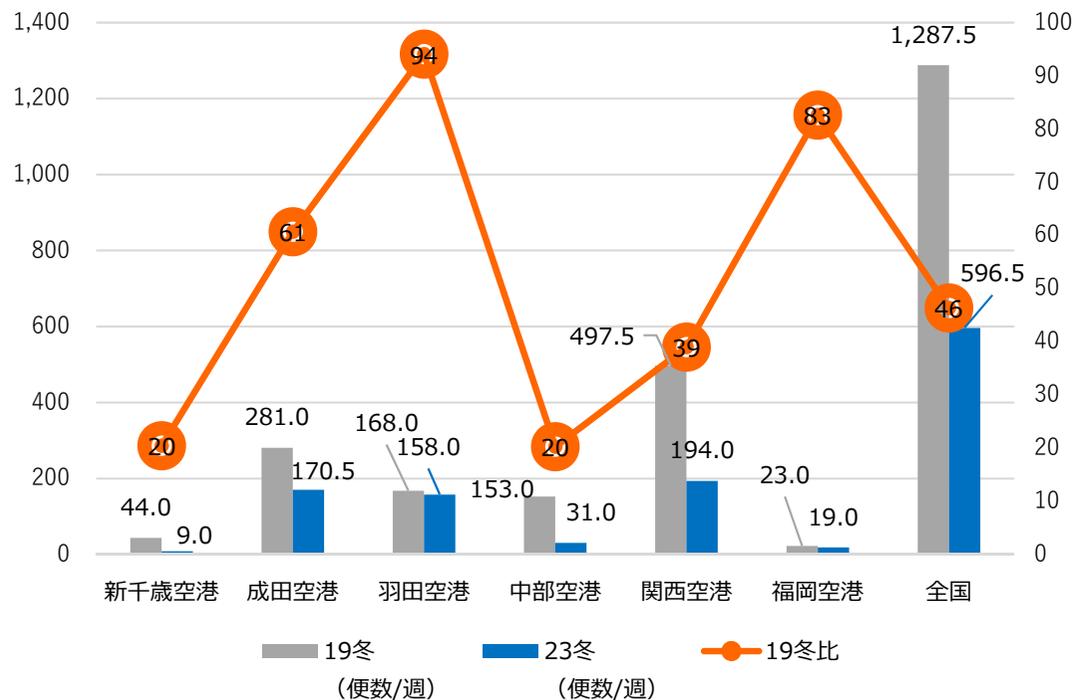
(注2) 「2023夏ダイヤ」国際線定期便 出典：2023年夏季事業計画認可データ、集計期間：2023年3月26日～4月1日、条件：出発+到着を1便とカウント、貨物便（旅客機を使用して貨物のみの運送を行う便を含む）を除く旅客便のみ集計

(注3) 「2023冬ダイヤ」国際線定期便 出典：2023年冬季事業計画認可データ、集計期間：2023年10月29日～11月4日、条件：出発+到着を1便とカウント、貨物便（旅客機を使用して貨物のみの運送を行う便を含む）を除く旅客便のみ集計

国際線就航状況②：目立つ中部空港の中国便回復遅れ

- 中国便就航の回復状況につき、空港間で比較すると、主要空港に比し、中部空港の回復が遅れている。
- 中部空港では、中国からの観光宿泊客の回復の遅れに加え、航空業界で問題となっているグランドハンドリングや保安検査などの人手不足の影響もあり、中国便の回復が大幅に遅れている。

■ 各空港における中国便就航状況



※各空港における中国便就航状況の注釈については、P10、各空港における国際線就航状況、中部空港における国別国際線就航状況と同じ

■ 空港業務（グランドハンドリング・保安検査）の人員状況

都市部国際空港の合計（成田・羽田・中部・関西）

	コロナ前	2023.4	2023.9	コロナ前比
旅客ハンドリング	約9,400人	約7,500人	約7,900人	84%
ランプハンドリング	約7,300人	約6,300人	約6,700人	92%
保安検査員	約4,000人	約2,900人	約3,000人	75%

- (注1) 旅客ハンドリング、ランプハンドリングのコロナ前は、2019.3時点
 (注2) 保安検査員のコロナ前は2020.4時点
 (注3) グランドハンドリング（旅客ハンドリング、ランプハンドリング）の体制は、主要61社の従業員数
 (注4) 保安検査員は全国の空港で旅客及び機内持込手荷物の検査、従業員検査、預入手荷物検査を行っている保安検査員の人数

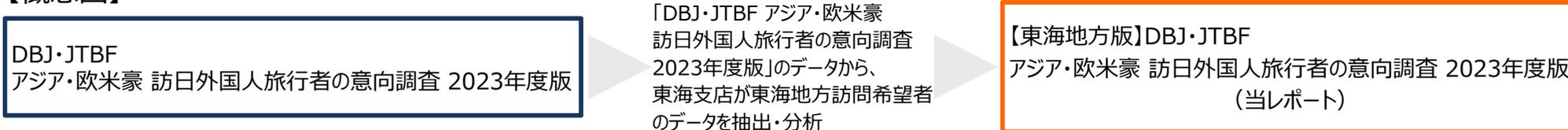
2. 調査概要

本調査は、東海4県に位置するわが国を代表する観光地である「富士山」、大都市の「名古屋」、地方観光地の「飛騨／高山」、「伊勢志摩／伊賀」、「紀伊半島／高野山／熊野古道」について、訪日外国人の日本旅行に関する意向を調査したもの

調査概要

- (株)日本政策投資銀行 (DBJ) 地域調査部および (公財) 日本交通公社 (JTBF) は、共同で「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 2023年度版」(調査期間：2023年7月6日～7月14日)を実施した(以下、「本調査」という)。
- 本調査は、DBJ地域調査部が2012年より継続的に実施しているアジア・欧米豪12地域(欧米豪は2016年より調査対象に追加)の海外旅行経験者を対象にしたインターネットによるアンケート調査で、2015年からはJTBFと共同で調査を行い、以降、毎年、調査及び調査結果のリリースを行っているものである。
- 当レポートは、DBJ東海支店が、本調査のデータから東海地方訪問希望者のデータを抽出し、集計・分析したものである。本調査の結果については、「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 2023年度版」(2023年10月公表)をご参照いただきたい。

【概念図】



■ 調査方法ほか

- 調査方法：インターネットによる調査
- 実施期間：2023年7月6日～7月14日
- 調査地域：【アジア】韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア
【欧米豪】アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランス (12ヶ国・地域)
(注) 中国は北京および上海在住者のみ(割合は北京50%：上海50%)
(注) アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスは2016年度調査から追加
- 調査対象者：20歳～79歳の男女、かつ、海外旅行経験者
(注) 中国-香港-マカオ間、マレーシア-シンガポール間、タイ-マレーシア間、アメリカ-カナダ・メキシコ・ハワイ・グアム間、オーストラリア-ニュージーランド間、イギリス・フランス-欧州
各国間の旅行は、海外旅行経験から除く
- 有効回答者：上記各地域に居住する住民計7,414人
- 協力会社：(株)インテージリサーチ、DBJデジタルソリューションズ(株)

調査概要

■ 回答者の内訳

上段：回答者数（人）
下段：割合（%）

項目	全体	アジア全体									欧米豪全体					
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス			
合計	7,414	4,857	603	596	624	602	600	636	594	602	2,557	632	616	619	690	
内、訪日経験者	3,348	2,930	438	307	486	526	401	324	190	258	418	100	158	103	57	
内、訪日希望者	6,963	4,722	575	594	618	596	592	609	555	583	2,241	557	542	541	601	
大都市	名古屋訪問希望者	955	867	58	108	207	146	68	83	75	122	88	21	29	20	18
		13.7%	18.4%	10.1%	18.2%	33.5%	24.5%	11.5%	13.6%	13.5%	20.9%	3.9%	3.8%	5.4%	3.7%	3.0%
地方観光地	飛騨／高山訪問希望者	182	157	5	12	52	43	12	13	11	9	25	4	3	8	10
		2.6%	3.3%	0.9%	2.0%	8.4%	7.2%	2.0%	2.1%	2.0%	1.5%	1.1%	0.7%	0.6%	1.5%	1.7%
	伊勢志摩／伊賀訪問希望者	119	102	7	13	35	21	6	9	6	5	17	3	4	0	10
	1.7%	2.2%	1.2%	2.2%	5.7%	3.5%	1.0%	1.5%	1.1%	0.9%	0.8%	0.5%	0.7%	0.0%	1.7%	
	紀伊半島／高野山／熊野古道訪問希望者	172	112	5	18	23	14	15	6	9	22	60	14	11	14	21
	2.5%	2.4%	0.9%	3.0%	3.7%	2.3%	2.5%	1.0%	1.6%	3.8%	2.7%	2.5%	2.0%	2.6%	3.5%	
定番	富士山訪問希望者	2,360	1,679	103	177	243	192	230	219	223	292	681	200	234	176	71
		33.9%	35.6%	17.9%	29.8%	39.3%	32.2%	38.9%	36.0%	40.2%	50.1%	30.4%	35.9%	43.2%	32.5%	11.8%
広域	中部／東海訪問希望者	103	75	7	19	10	9	5	5	8	12	28	5	9	7	7
		1.5%	1.6%	1.2%	3.2%	1.6%	1.5%	0.8%	0.8%	1.4%	2.1%	1.2%	0.9%	1.7%	1.3%	1.2%

大都市：3大都市圏および札幌・仙台・広島（東京、横浜、名古屋、大阪、京都、神戸、札幌、仙台/松島、広島、福岡/博多/小倉）

広域：エリア名（北海道、東北、北陸、中部/東海、関西、四国、九州、沖縄）

地方観光地：その他の観光地

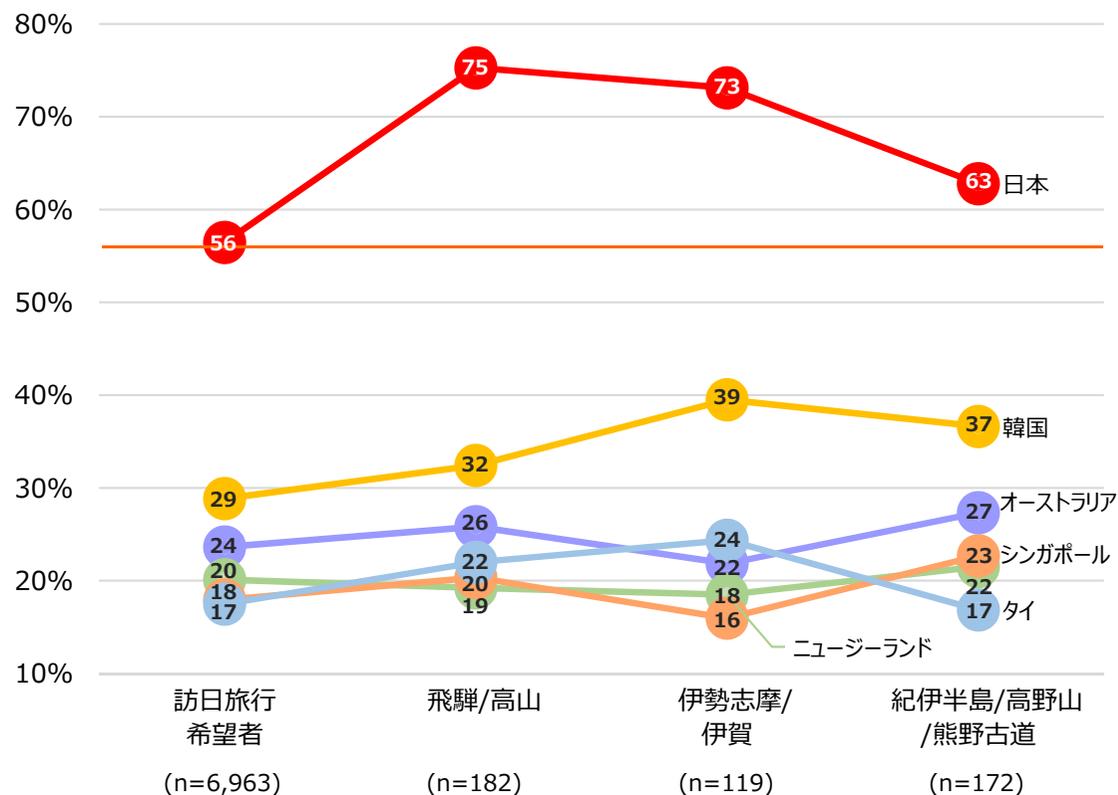
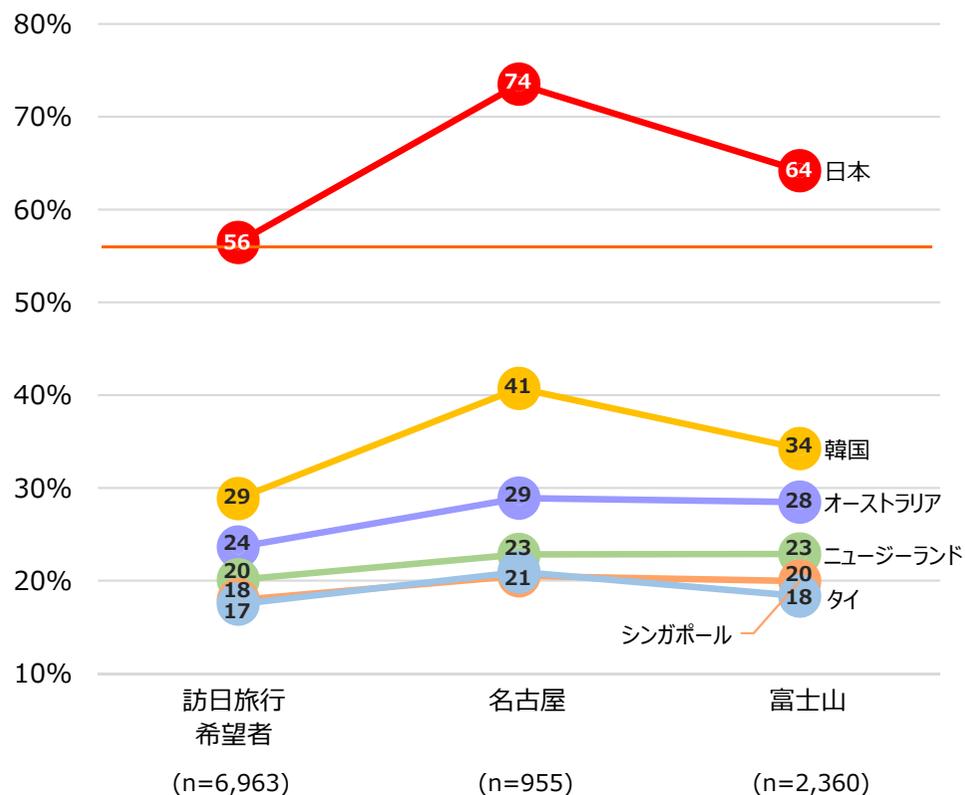
※富士山のみ定番観光地（定番）と分類

3. 分析結果① 東海訪問希望者の特徴

分析① 東海訪問希望者は日本旅行が大好き

- 訪日旅行希望者に、今後、観光旅行したい国・地域を尋ねたところ、「日本」が1位。東海訪問希望者についても、いずれの観光地でも「日本」が1位となった。
- 「日本」と回答した割合は、訪日希望者全体（56%）より東海5観光地への訪問希望者がそれぞれ大きく上回った。特に「名古屋」（74%）、「飛騨／高山」（75%）、「伊勢志摩／伊賀」（73%）は「日本」との回答が75%前後に達し、とりわけ日本旅行好きな旅行者が訪問を希望するエリアであると言える。

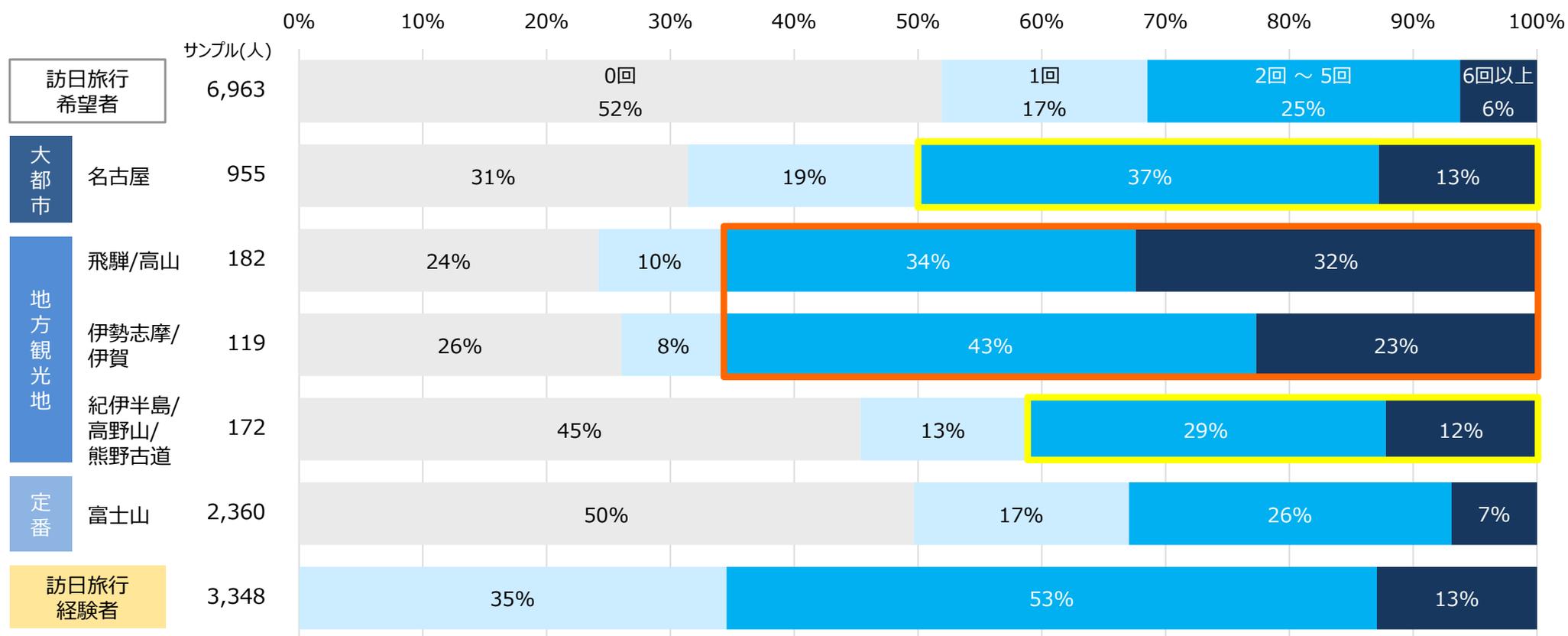
Q. 今後、あなたが観光旅行したい国・地域を最大5つまでお選び下さい。（複数回答）



分析② 東海は訪日リピーターが旅行するエリア

- 東海は、富士山を除き、訪日リピーターが観光旅行を希望するエリア。
- 飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀は、訪問希望者のうち、訪日旅行回数2回以上のリピーターの割合が65%を超える。訪日回数6回以上のコアリピーターも多い。
- 名古屋は、訪問希望者に占めるリピーターの割合が5割程度、紀伊半島／高野山／熊野古道は4割程度を占める。

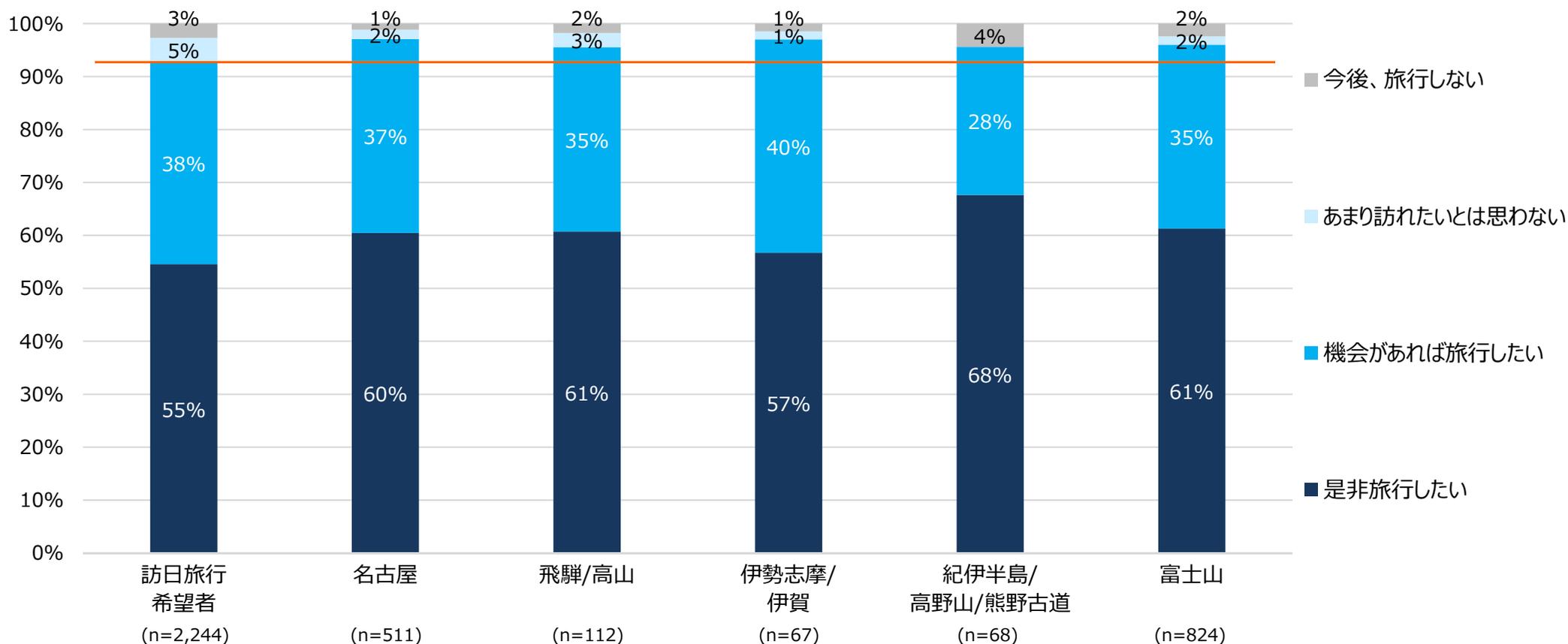
Q. これまでの訪日旅行回数



分析③ 東海訪問希望者は、日本の地方観光に非常に関心が高い

- 訪日旅行希望者の日本の地方観光への関心は高く、「旅行したい」との回答が9割を超えた。
- 東海への訪問希望者も同様で、いずれの地域でも95%を超える。とりわけ「是非旅行したい」との割合が高く、東海各観光地への訪問希望者は、日本の地方観光への関心が非常に高いと言える。
- 大都市「名古屋」への訪問希望者についても、97%が日本の地方観光に関心を示し、60%が強い関心を示した。大都市「名古屋」と周辺の地方観光とのパッケージは、インバウンドに対し強い訴求力があると言える。

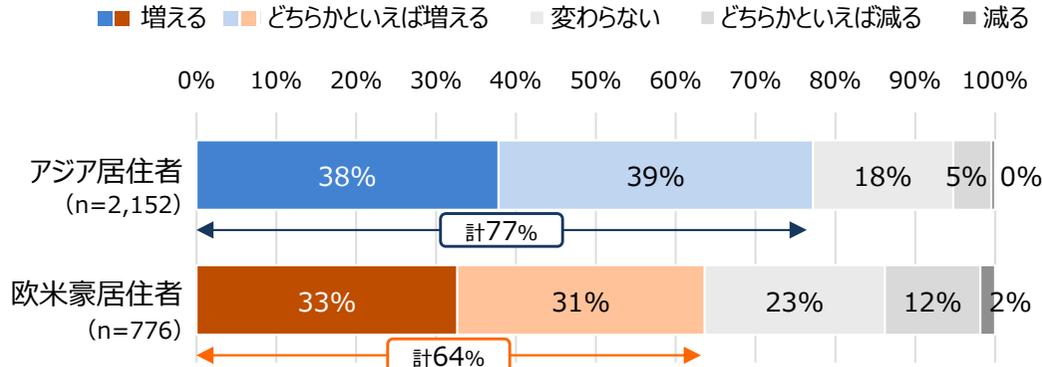
Q.あなたは、日本の地方にある（首都圏、都市部から離れた）観光地を、今後訪れたいと思いますか。



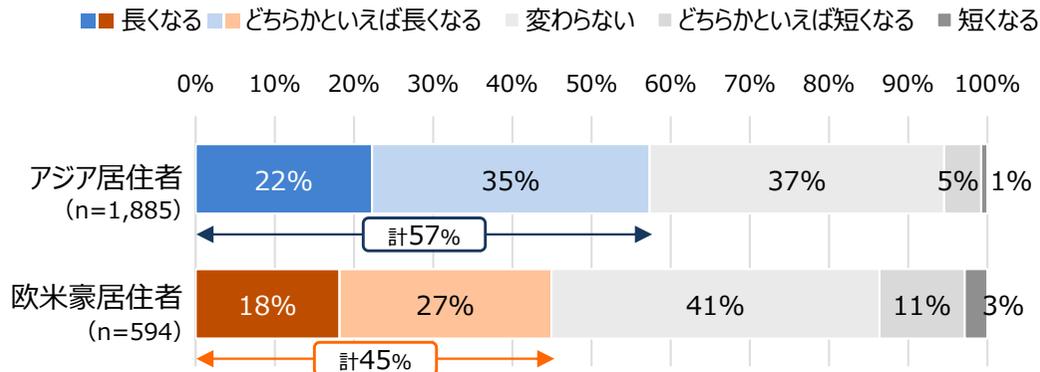
分析④ 予算、滞在日数の増加が期待される

- アジア、欧米豪ともに、次の海外旅行の予算は「増加する」との回答が、次の海外旅行の滞在日数は「長期化する」との回答が、大きなウエートを占めた。
- 訪日旅行経験者に直近（2022年10月以降）の日本旅行の滞在日数を尋ねたところ、東海訪問希望者は長期滞在の傾向が示された。特に東海3地方観光地への訪問希望者は、滞在日数「7～13日間」が5割を超えた。「28日間以上」との回答も5%となった。

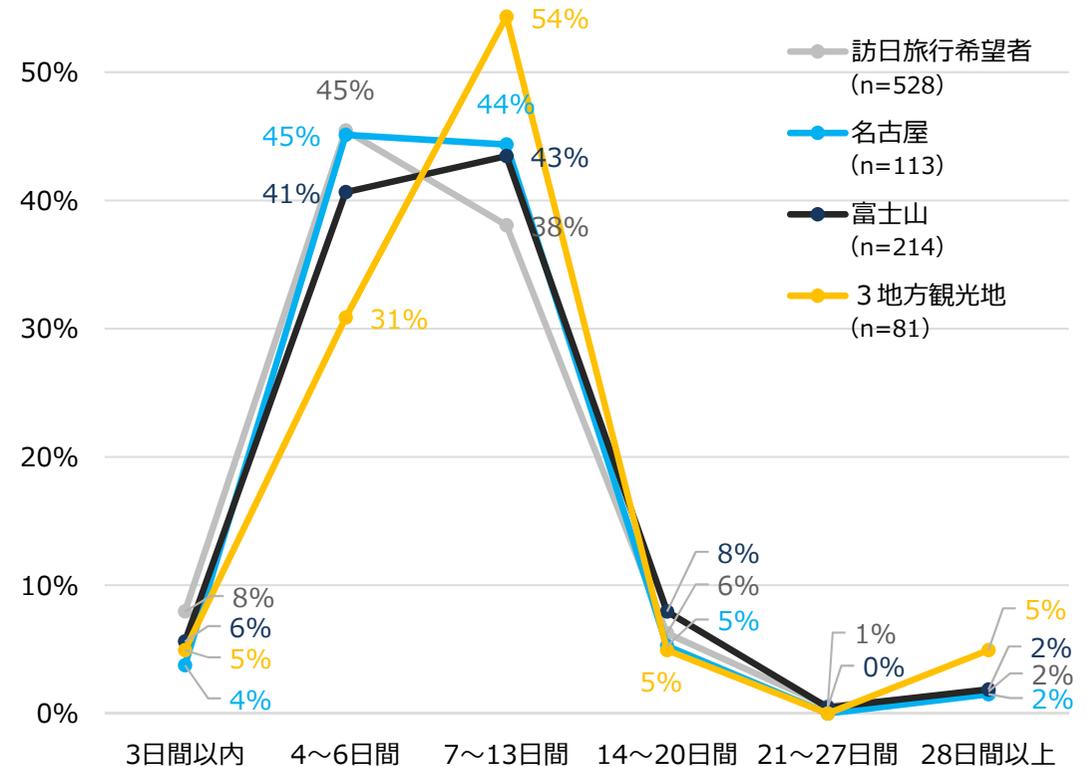
Q. 次の海外旅行の予算



Q. 次の海外旅行の滞在日数



Q. 前の日本旅行（2022年10月以降）の滞在日数

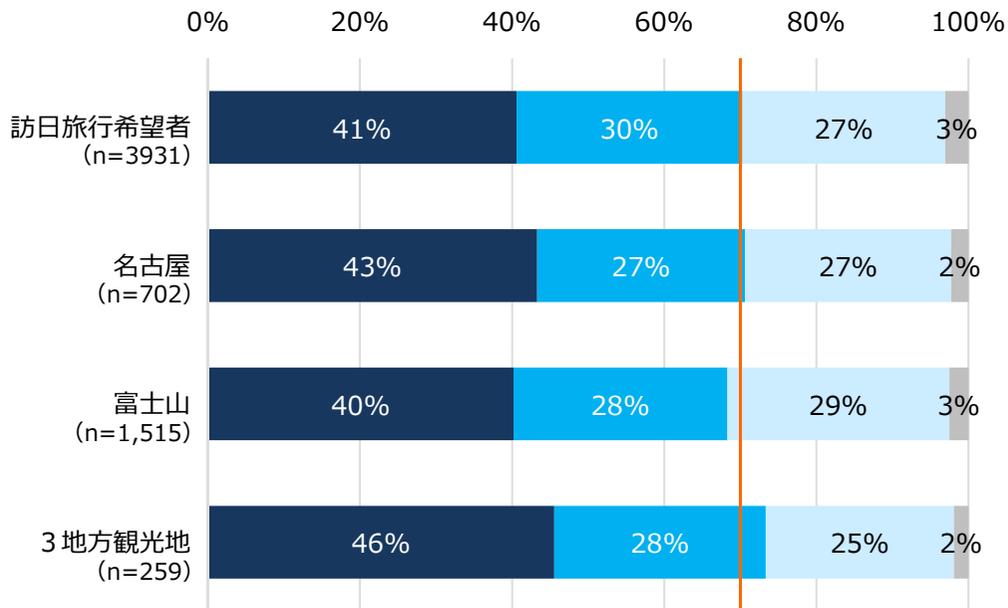


※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

分析⑤ こだわり消費には出し惜しみしない

- 訪日旅行希望者の約7割が、訪日旅行の際、こだわりのサービスやモノに出し惜しみをしない。
- 東海観光地への訪問希望者についても、訪日旅行の際、こだわりのサービスやモノに出し惜しみをしない結果となった。特に東海3地方観光地への訪問希望者は、その傾向が強いと言える。
- 東海観光地への訪問希望者に、過去（直近）の訪日旅行の際の支出額について尋ねたところ、東海3地方観光地への訪問希望者の平均金額が高い。とりわけ過去の訪日旅行の際に30万円以上の支出を行った旅行者は4割を超えた。

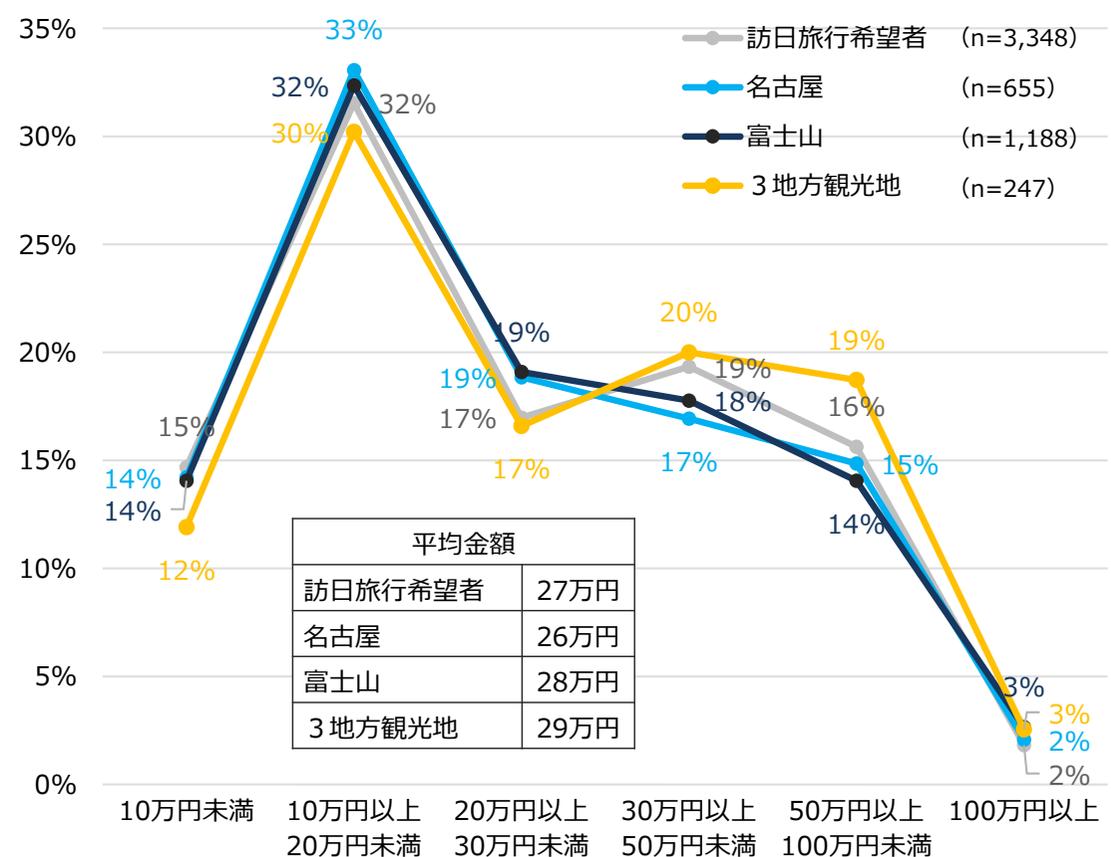
Q. 訪日旅行する場合の支出の考え方



- 自分が望むレベルのサービスやモノの品質レベルであれば、全般的に支出を惜しまない
- 自分がこだわっているサービスやモノのみ、支出を惜しまない
- 情報収集し、全般的によりよいサービスやモノをできるだけ安く購入したい
- 全般的に安さを重視する

※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

Q. 直近の訪日旅行の支出金額

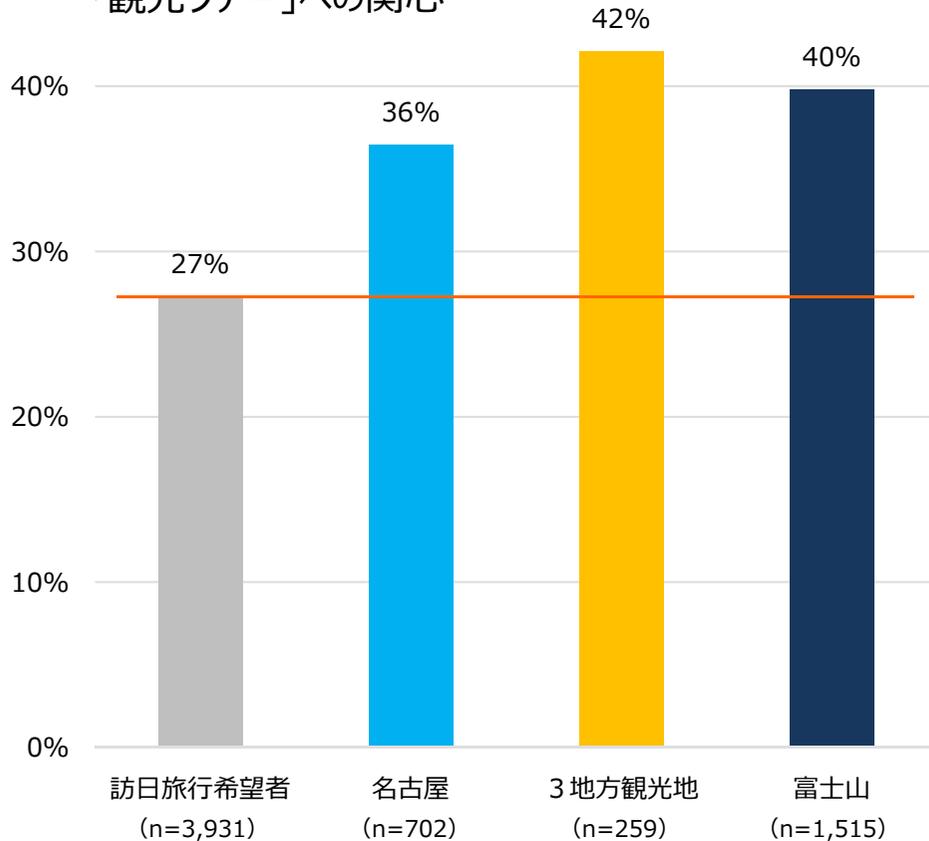


分析⑥ サステナブルな取り組みへの関心が強い

- 東海訪問希望者は、「自然や資源を損なうことのないよう配慮されている観光地・観光ツアー」への関心が高い。
- 「名古屋」「東海3地方観光地」訪問希望者を中心に「サステナブルな取り組み（※）」への関心も高く、東海訪問希望者の75%を超える。インバウンド誘客において、サステナブルな取り組みは不可欠であると言える。

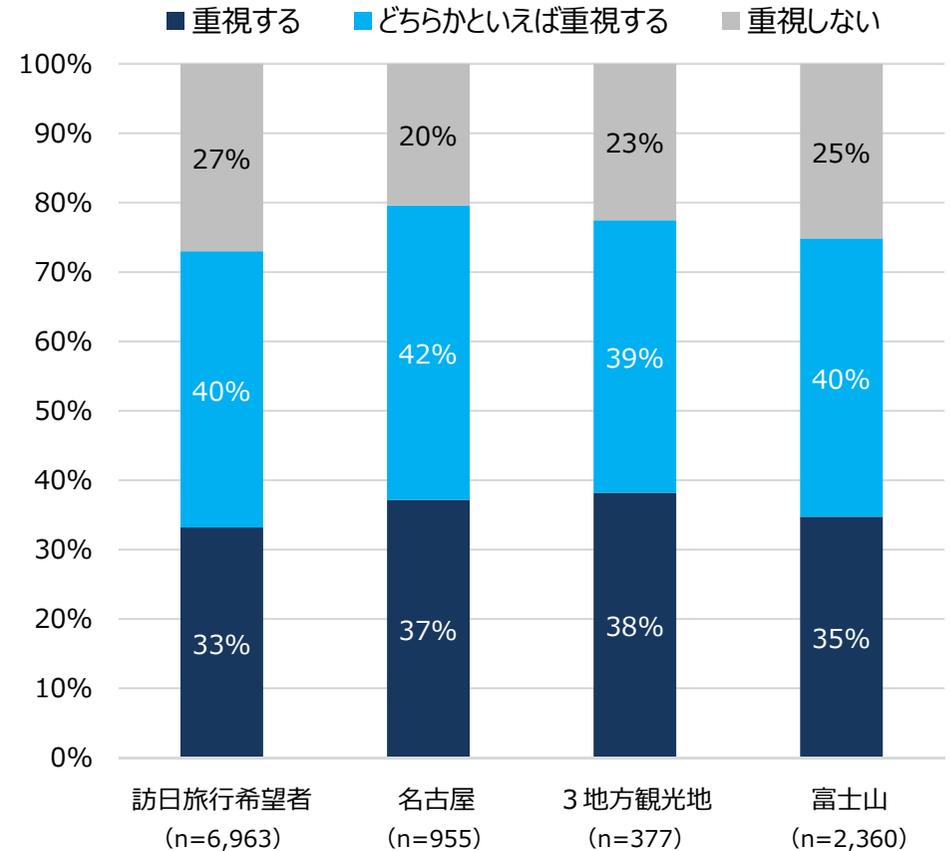
※. 地域の「自然や生物多様性の保全等」、「伝統・文化の保存・継承」、「地域経済の活性化や地域づくり」の保護と貢献への取り組み

Q. 「自然や資源を損なうことのないよう配慮されている観光地・観光ツアー」への関心



※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

Q. サステナブルな取り組みへの関心



(参考) サステナブル・ツーリズム (持続可能な観光) とは

- サステナブル・ツーリズム (持続可能な観光) とは、国連世界観光機関 (UNWTO) によると、「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光」を意味する。
- 世界的なサステナビリティへの関心の高まりの中、日本ならではのサステナビリティへの貢献や選択を体験できる取り組みが重要となる。JNTOは、サステナブル・ツーリズムを、①地域の「環境」を守る・育む、②地域の「文化」を守る・育む、③地域の「経済」を守る・育むの3つの枠で捉え、「EXPLORE DEEPER –Sustainable Travel Experiences in Japan」の発行をはじめ、海外向け情報発信など各種プロモーションを行っている。

(図表) JNTOが考えるサステナブル・ツーリズム

環境	文化	経済
地域の「環境」を守る・育む	地域の「文化」を守る・育む	地域の「経済」を守る・育む
環境負荷に配慮した観光コンテンツなど、環境資源を最適な形で観光に活用している事例について情報発信し、自然や生物多様性の保全等に貢献する	日本が古来育んできた地域の有形無形の伝統・文化資産等を、魅力ある形で海外に発信し、外国人旅行者による体験等を通じて、その保存・継承に貢献する	・外国人旅行者の時期的、地域的偏在をなくす ・地域ならではの体験や特産品等の購入を促進し、地域経済の活性化と安定的長期的な雇用を創出し、住んで良し、訪れて良しの地域づくりに貢献する

(図表) JNTO「EXPLORE DEEPER –Sustainable Travel Experiences in JAPAN」50選における東海の事例

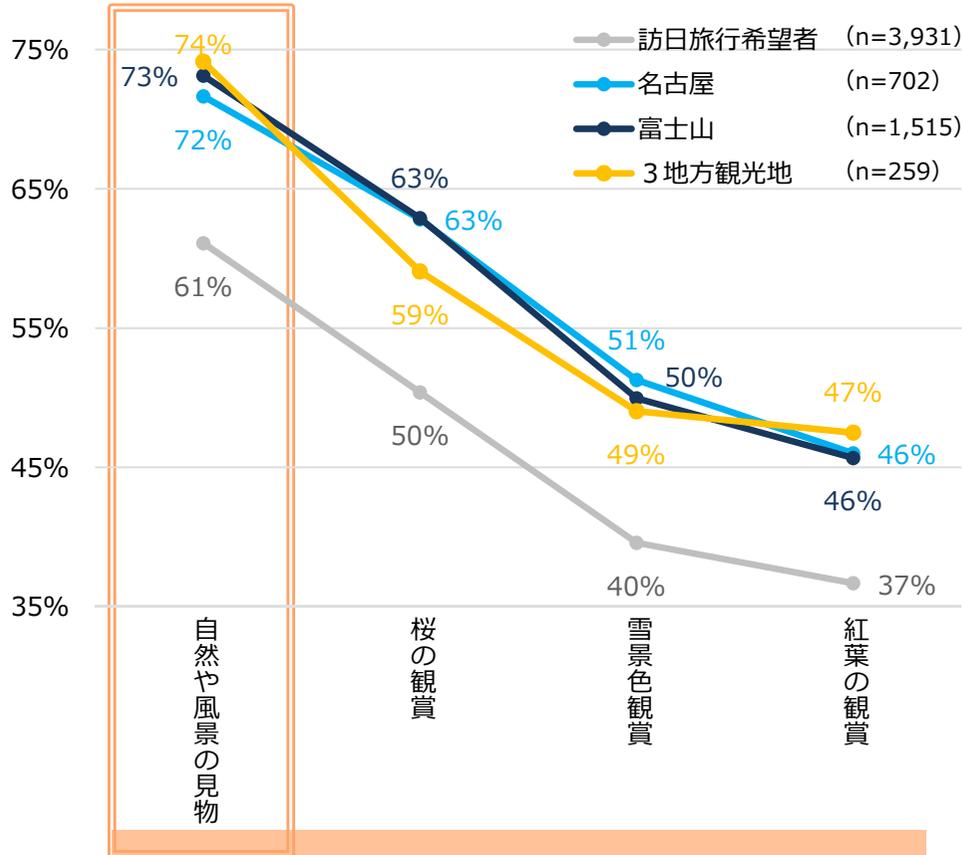
コンテンツ	県	内容
飛騨里山サイクリング	岐阜県	ローカルガイドと農村・里山の文化・歴史を体感
茶草場農法の農家体験・民泊	静岡県	静岡のお茶農家から伝統的なお茶づくりを学ぶ
海女小屋はちまんかまど	三重県	海女の語りと伊勢志摩の新鮮な魚介を堪能
白川郷・五箇山	岐阜県 富山県	世界遺産の合掌造り集落に宿泊
正藍染藍染め体験	岐阜県	400年以上続く伝統の正藍染でジャパングルーを体感

4. 分析結果② 東海訪問希望者の訪日旅行ニーズ（体験したいこと）

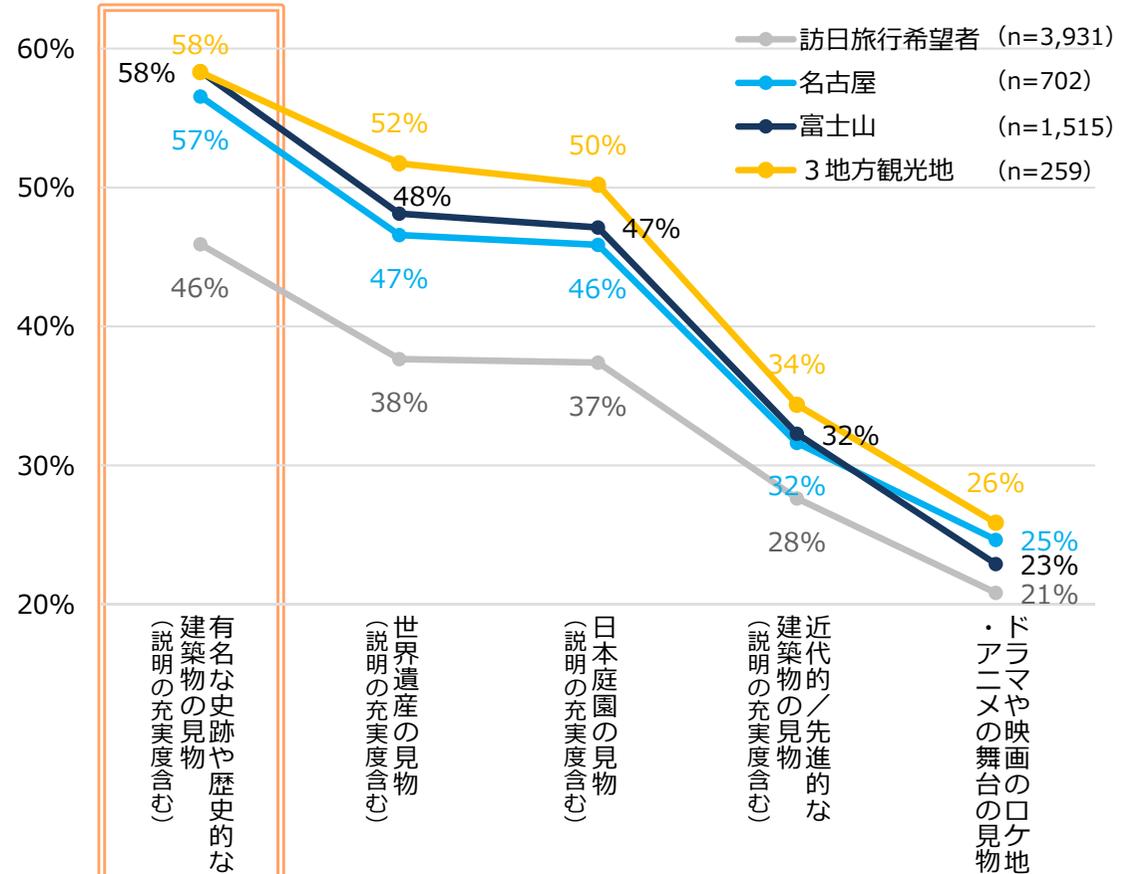
日本旅行での体験希望①（自然・名所） 全ての項目で高い関心、雪景色も人気

- 自然観賞、名所見物について、東海訪問希望者は全ての項目で訪日旅行希望者を大きく上回った。
- 自然観賞に関し、7割を超える東海訪問希望者が関心。「桜」、「雪景色」、「紅葉」への関心も約5割を超える。
- 名所見物に関し、6割近い東海訪問希望者が関心。とりわけ東海3地方観光地への訪問希望者が、全ての項目について最も高い関心を示した。中でも「世界遺産の見物」や「日本庭園の見物」への関心が高く、5割を超える。

Q. 自然観賞



Q. 名所見物

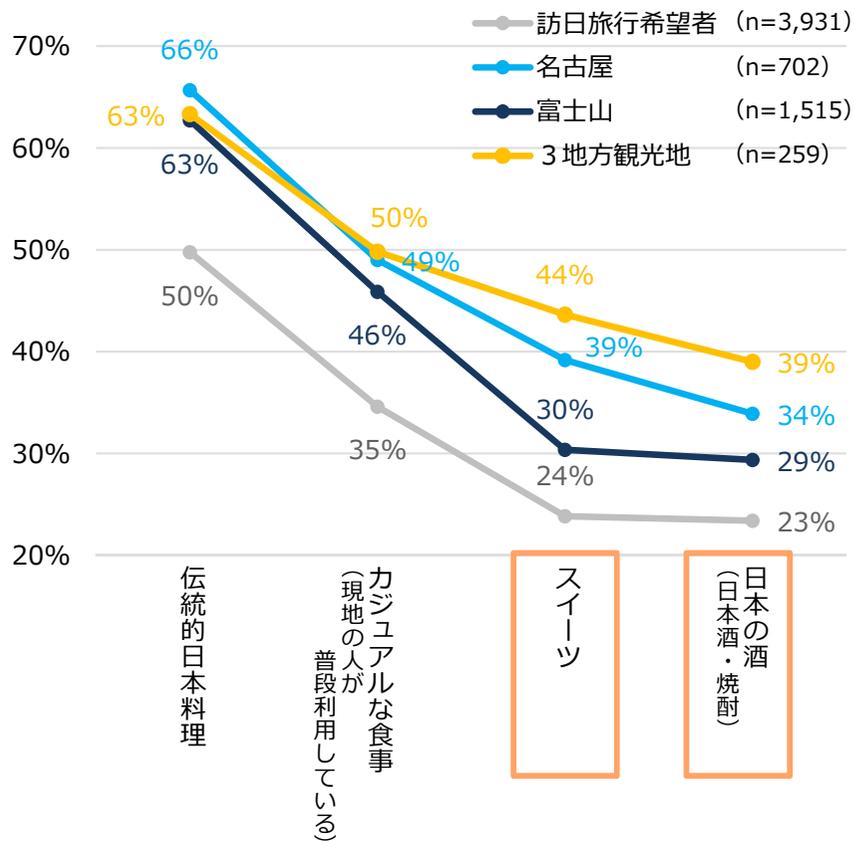


※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

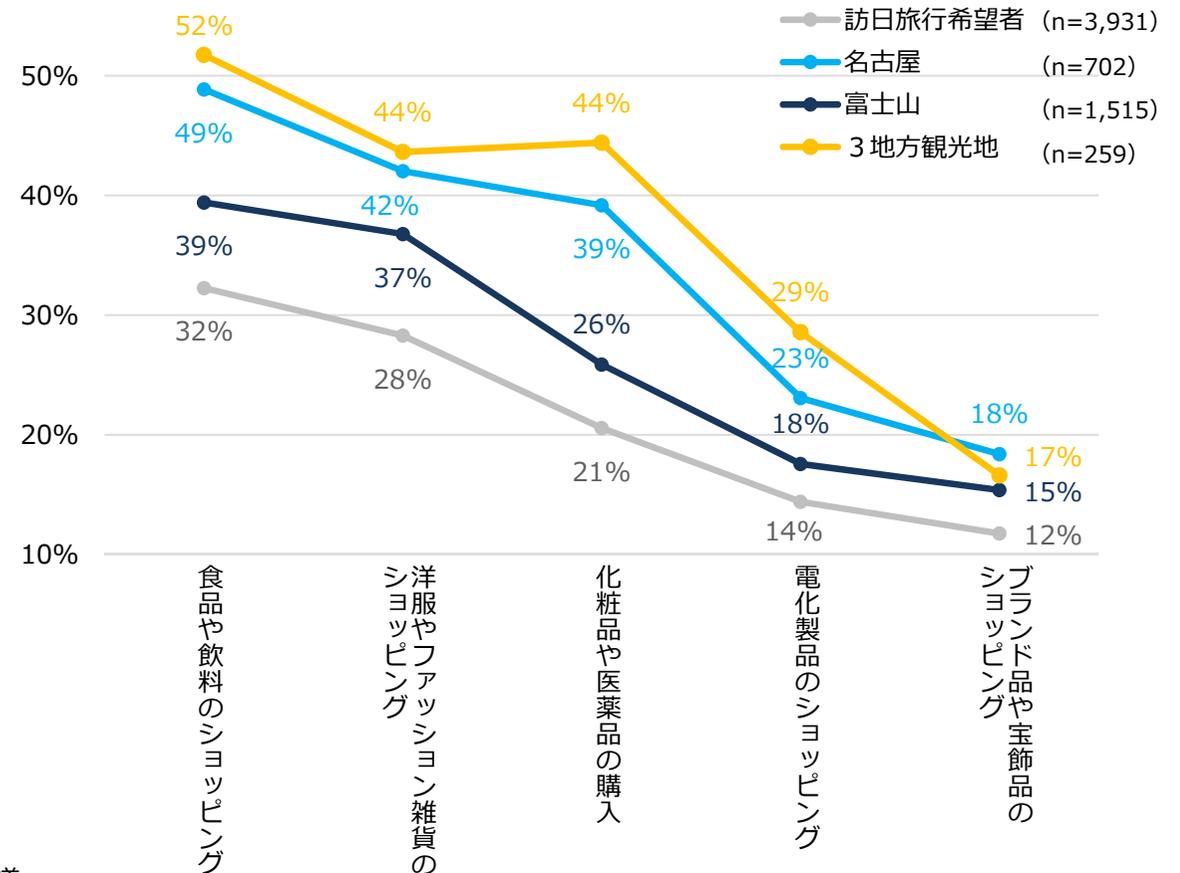
日本旅行での体験希望②（食事・ショッピング）スイーツ・日本の酒、ショッピングも人気

- 食事、ショッピングについても、東海訪問希望者は全ての項目で訪日旅行希望者を大きく上回った。特にショッピングについて、多くの項目で東海3地方観光地が訪日旅行希望者を15～20%上回った。
- 食事に関し、6割を超える東海訪問希望者が「伝統的日本料理」に関心。東海3地方観光地訪問希望者は、訪日旅行リピーターが好むと思われる「スイーツ」や「日本の酒」への関心も高い。

Q. 食事



Q. ショッピング

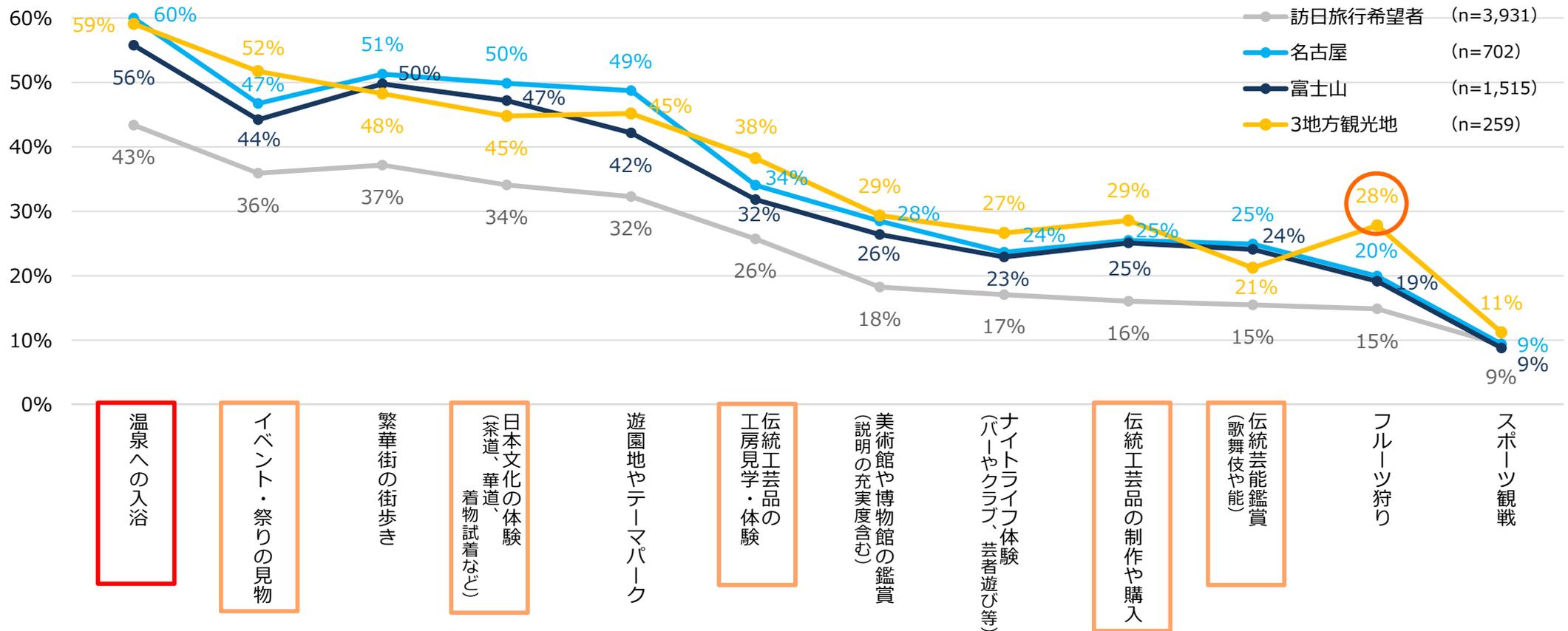


※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

日本旅行での体験希望③（各種体験） 温泉や日本の伝統・文化への関心が高い

- 各種体験についても、東海訪問希望者は全ての項目で訪日旅行希望者を大きく上回った。
- 「温泉」人気が高く、東海訪問希望者は6割近い関心が示された。
- 東海訪問希望者は、「イベント・祭りの見物」「日本文化の体験（茶道、華道、着物試着など）」「伝統工芸品の工房見学・体験」「伝統工芸品の制作や購入」「伝統芸能鑑賞」など日本の伝統・文化に関する項目が相対的に高い結果となった。東海3地方観光地への訪問希望者は、「フルーツ狩り」への関心も相対的に高い。

Q. 体験

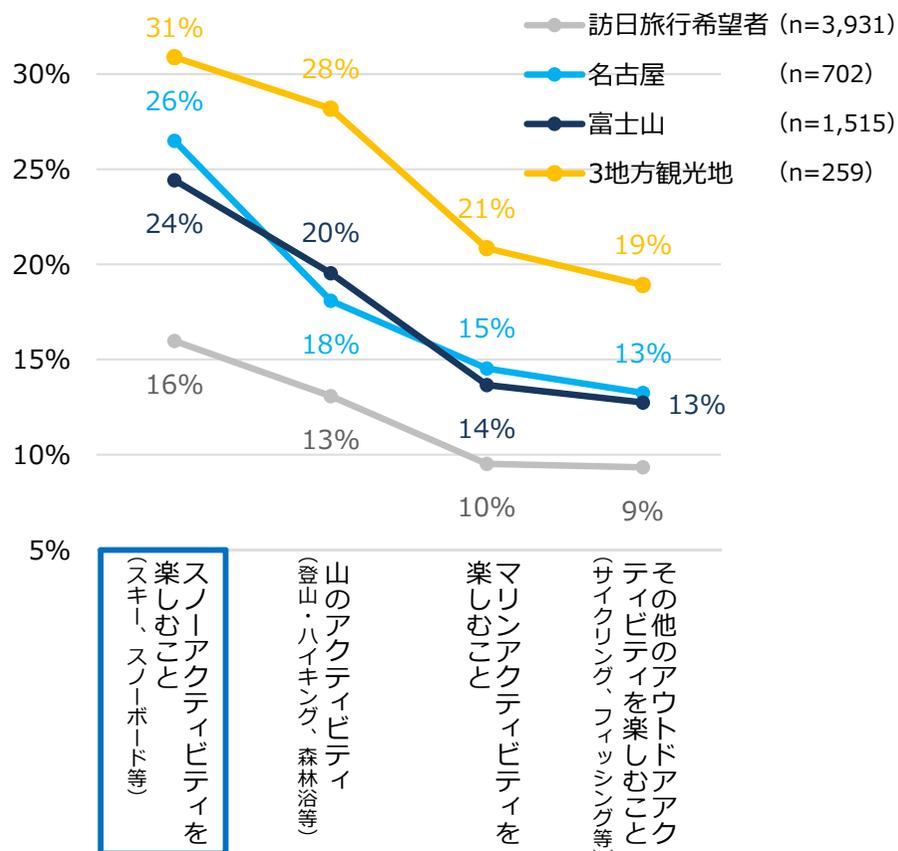


※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

日本旅行での体験希望④（アクティビティ） スノーが人気、スノーのみ目的の訪日は少数

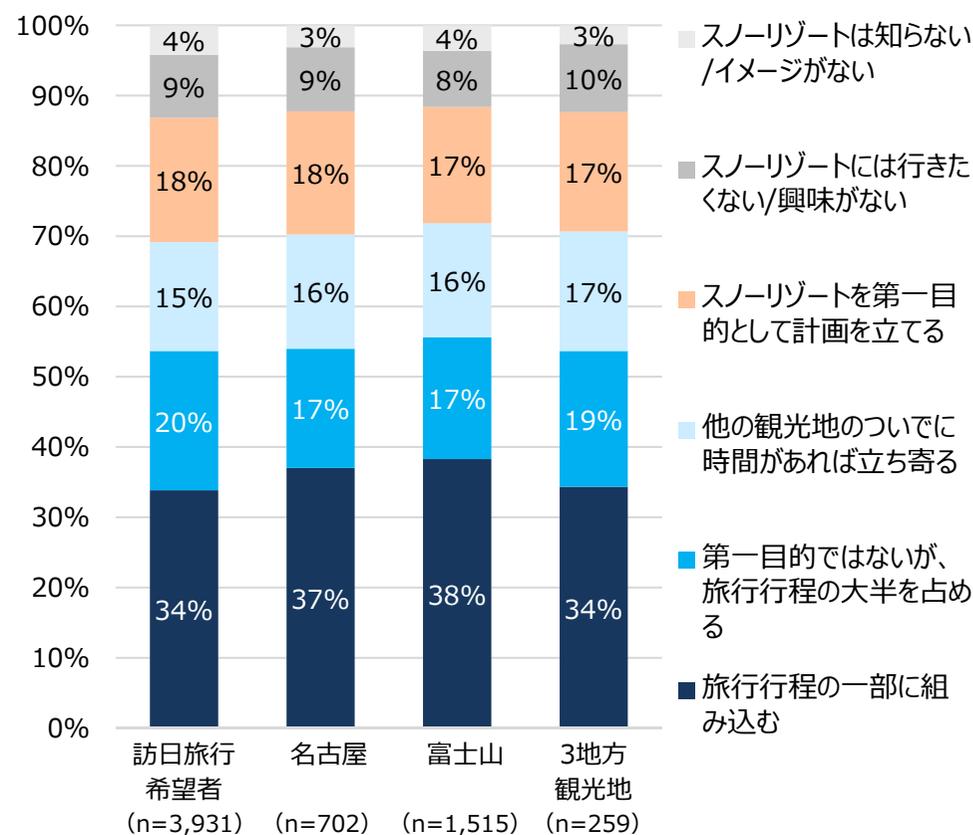
- アクティビティについても、東海訪問希望者は全ての項目で訪日旅行希望者を大きく上回った。とりわけ東海3地方観光地への訪問希望者が高い関心を示す。アクティビティの中では「スノーアクティビティ」の人気が高く、東海3地方観光地訪問希望者では3割を超える。
- 訪日旅行希望者に、スノーリゾートへ行く場合の旅行行程について尋ねたところ、スノーリゾートを第一目的として計画を立てる割合は2割弱に過ぎず、旅行行程の一部や立ち寄りとして組み込むとの回答が7割近くを占めた。東海訪問希望者についてもほぼ同様の結果となった。インバウンドに対しては、スノーリゾートに加え、他の観光との組み合わせを提示することが有効であると考えられる。

Q. アクティビティ



※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

Q. スノーリゾートの旅行行程（訪日希望者）



※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

5. まとめ 周遊性の活用と向上

まとめ① 日本国内を周遊するインバウンド

- 2023年のインバウンド（観光目的）の平均滞在日数を見ると、全体で6.9泊（2019年差+0.8泊）、東アジアが3～8泊、東南アジアが6～10泊、欧米豪が11～16泊であり、コロナ前の2019年に比べ、長期化している。
- また、2019年に四国を訪れた東アジアからのインバウンド（平均滞在日数3～6日）は、平均1.5～2.7県に宿泊している。訪日旅行においてインバウンドは県をまたいで（広域で）数か所を周遊するのが一般的であると言える。
- 日本好きの訪日旅行リピーターが多く、多様な関心をもつインバウンドが訪れる東海地域において、周遊するインバウンドのニーズを満たすには、様々な体験を楽しめるよう、複数の多様な観光地をパッケージとして提供することが求められる。

（図表）国・地域別平均泊数（2023年。観光目的）

（単位：泊）

国・地域	韓国	中国	台湾	香港
平均泊数	3.6	7.4	5.8	6.5
2019年差	+0.3	+1.5	+0.6	+0.9

国・地域	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア
平均泊数	6.5	9.1	7.5	8.0
2019年差	+0.8	+1.1	+0.5	+0.5

国・地域	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス
平均泊数	11.0	13.9	13.8	15.9
2019年差	+1.6	+1.0	+2.3	+1.4

（図表）四国を訪れたインバウンドの宿泊地数（2019年）

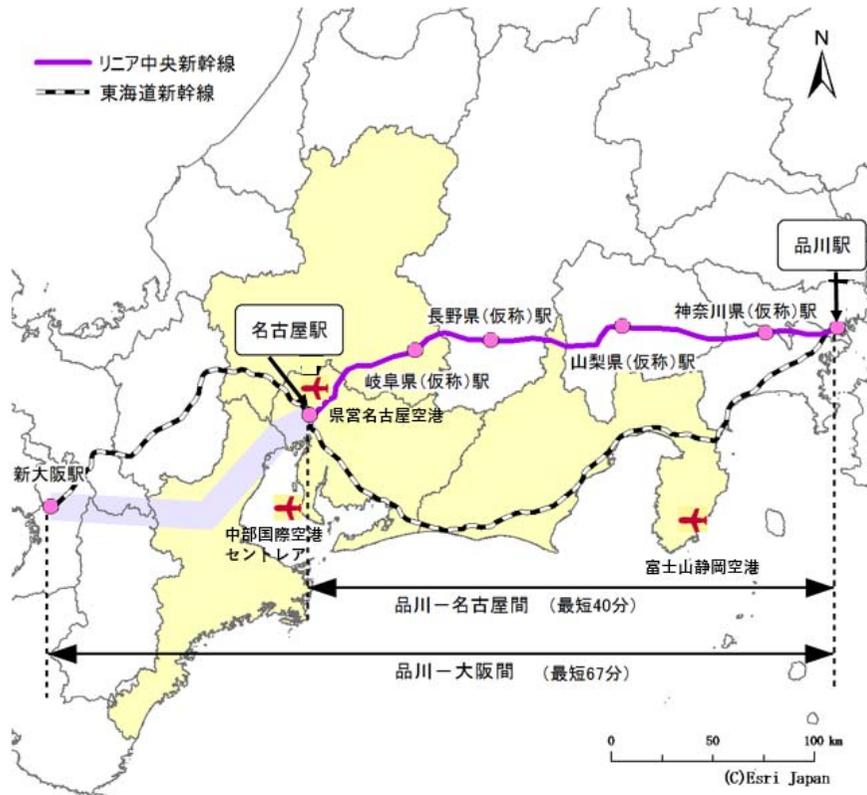
	韓国 n=341	中国 n=104	台湾 n=321	香港 n=354
宿泊地数 (内、四国)	1.5県 (1.2県)	2.5県 (1.4県)	2.8県 (1.6県)	2.7県 (1.8県)
(四国宿泊数)	(3.2泊)	(3.5泊)	(3.8泊)	(4.9泊)

出典：DBJ四国支店「東アジア4地域の四国旅行に関する実態調査」

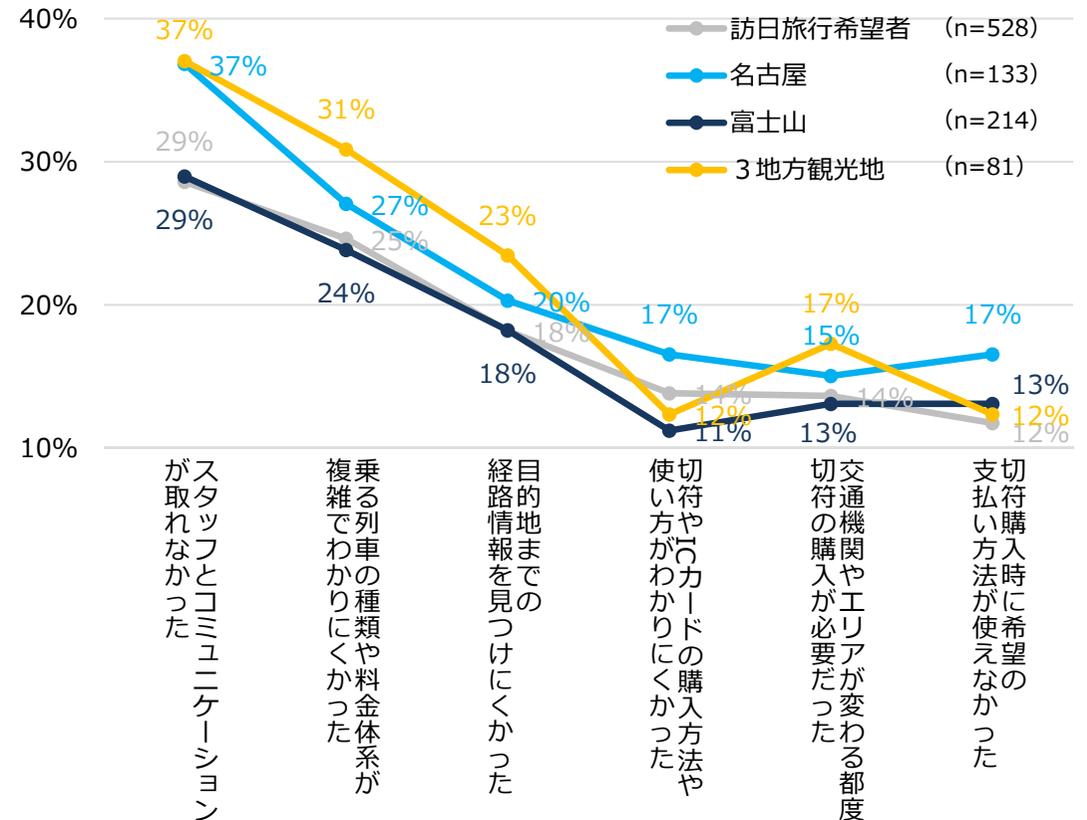
まとめ② 周遊性の向上と活用：広域交通の優位性を活かすための二次交通整備

- インバウンドが複数の観光地を周遊するには、観光地へのアクセス（公共交通）が整備されていることが必須。東海地域には、東海道新幹線、中部国際空港、県営名古屋空港、富士山静岡空港といった広域交通に加え、2027年以降にはリニア中央新幹線の開通（計画中の停車駅は岐阜県、山梨県、長野県、神奈川県）が計画されている。
- 広域交通ハブを拠点に、観光地に至る二次交通の利便性を高めることが課題。特に東海観光地への訪問希望者は公共交通の利便性への感度が高い。二次交通網の整備に加え、交通スタッフの外国語対応能力向上、外国人にわかりやすい交通、料金体系整備、わかりやすい経路情報提供、切符購入や料金決済の利便性向上が求められる。

（図表） 充実する広域交通網



（図表） 日本旅行における公共交通で感じた不便さ



※ 3地方観光地：飛騨／高山、伊勢志摩／伊賀、紀伊半島／高野山／熊野古道

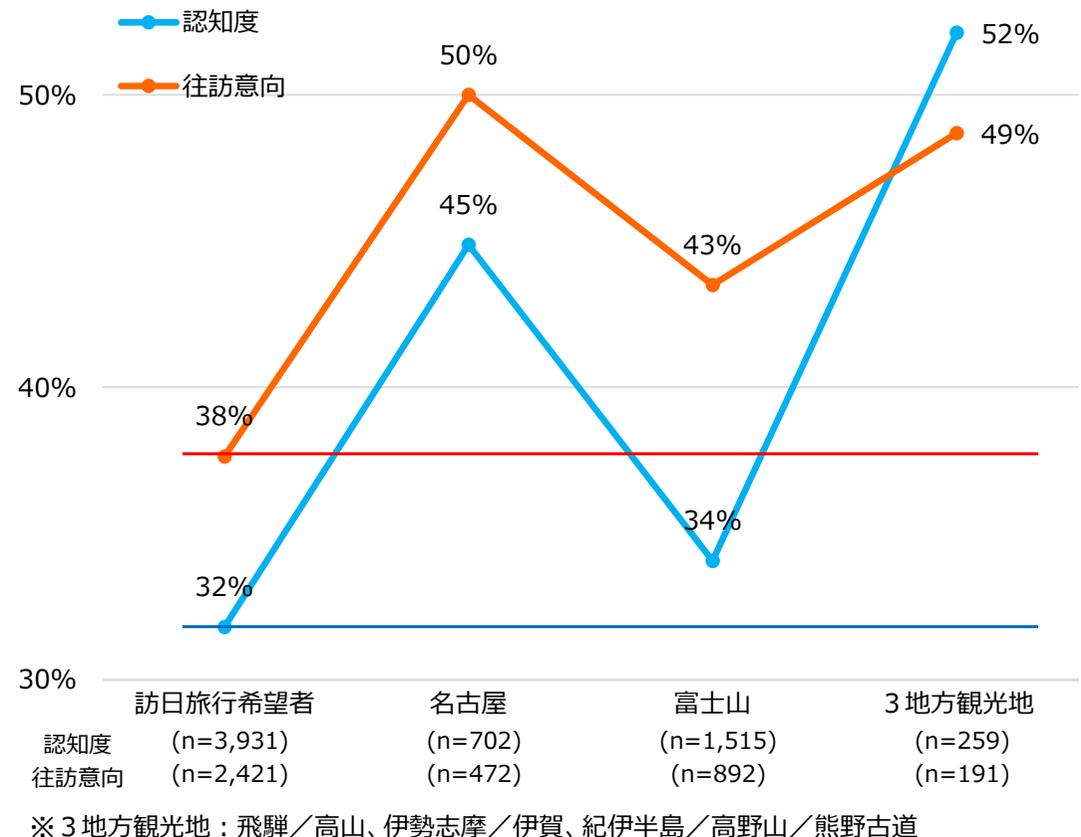
まとめ③ 周遊性の向上と活用：広域交通網を活かした他地域インバウンドの呼び込み

- また、充実する広域交通網を活かし、東海地域での集客イベント（ジブリパーク、アジア・アジパラ競技大会など）を積極的に活用するとともに、域外の大型集客イベントに訪日する外国人を東海地域へ回遊することも有効であると考える。
- たとえば「大阪・関西万博」（2025）は、東海訪問希望者の認知度、往訪意向が高い。大阪・関西万博で来日するインバウンドに東海地域を観光してもらい、彼／彼女らに多様な観光資源に恵まれる東海地域のリピーターになってもらうことも、東海地域のインバウンド観光活性化に活用できると考える。

（図表）日本で計画されている大型集客イベント

開催時期		イベント
2024	3	東京マラソン2024（東京）
		ジブリパーク新エリア「魔法の谷」開園（愛知）
		北陸新幹線 金沢-敦賀間開業
	4	2024 F1日本グランプリ 鈴鹿サーキット（三重）
		春の高山祭（山王祭）（岐阜）
	5	神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会（神戸）
	9	2024FIA 世界耐久選手権 第7戦 富士6時間耐久レース（静岡）
10	秋の高山祭（八幡祭）（岐阜）	
2025	3	東京マラソン2025（神戸）
	4	2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）
	9	東京2025世界陸上競技選手権大会（東京）
		国際芸術祭「あいち2025」（愛知）
2026	9	第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）
	10	第5回アジパラ競技大会（2026/愛知・名古屋）
2027	5	ワールドマスターズゲームズ2027関西（関西）

（図表）大阪・関西万博（2025）の認知度と往訪意向



著作権 (C) Development Bank of Japan Inc. 2024
当資料は、株式会社日本政策投資銀行 (DBJ) により作成されたものです。

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引などを勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願いいたします。

本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡ください。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず『出所：日本政策投資銀行』と明記してください。